

志小安全・防災だより



H30.7.9 NO.16
安全・防災担当：早坂 潤

地域を知る活動から防災・安全教育へ！

朝に学校の周りを一回りしていると、「くろしお見守り隊」の方々より、地域のことをいろいろと教えていただき、とても勉強になっています。朝に45号線から学校に向かう道路の一番入り口に立ってくださっている阿部長喜さんより、先日昭和30年代の志津川町の写真を見せていただきました。八幡川の河口に並んだ家々やつないである木船が写っている写真は、昭和の時代を思い出し、とても懐かしい感じがしました。その写真の中に、八幡川沿いに当時建っていた志津川小学校が小さく写っていました。この場所は、昭和の初期



に旭製糸工場があった場所だそうです。志津川のまちは養蚕業が盛んで、昭和初期の万国博覧会で立派な賞をいただいたそうです。製糸工場で使う水は主として八幡川から引かれ、その取水口のなごりが今でも中学校下に残っているそうです。このような様々な産業の発展より、まちが潤っていた志津川のまちは、昭和の初期に宮城県内で2番目に電灯がついたまちなのだそうです。1番目は、仙台だったのでしょか。

2年生、6年生で、地域を学ぶ活動が行われました！

地域を知る活動として、28日に6年生の校外学習で志津川湾巡り、29日に2年生の南三陸さんさん商店街見学が行われました。6年生の志津川湾巡りでは、観光船に乗せていただき、志津川湾を180度見渡すことができました。なぜ志津川湾の養殖場で「カキ」が大きく育つのは、湾内に注ぐ川が、栄養分をたくさん運んで海に流れ込むからだそうです。その他に、なぜ椿島が青島と呼ばれるのかや、多くの種類の養殖いかだが作られていることなど、漁協青年部の方から詳しく説明をいただきました。2年生のさんさん商店街見学では、山内鮮魚店で、生きているアナゴをつかませてもらったり、マンボウやサーモンの刺身を味見させてもらったりと子どもたちは大喜びでした。行く途中で、旧志津川保育所がパワーショベルで解体されており、土ぼこりが立たないように水を掛けられている様子を見て、寂しそうにしていた子が見られ、私も複雑な思いでした。思い出いっぱい保育所だったそうです。



※ 地域の方から教えていただいた昔の志津川の話、子どもたちの南三陸町からの学びは、これから、自分たちの安心・安全な生活にもつながっていくことと思います。地域を愛する子どもたちがどんどん増えるように支援していきます。

